

グローバル全生物ゲノム株式ファンド (1年決算型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第5期（決算日2023年12月7日）

作成対象期間（2022年12月8日～2023年12月7日）

第5期末（2023年12月7日）	
基準価額	10,145円
純資産総額	28,761百万円
第5期	
騰落率	△2.0%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）」は、2023年12月7日に第5期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<644552>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

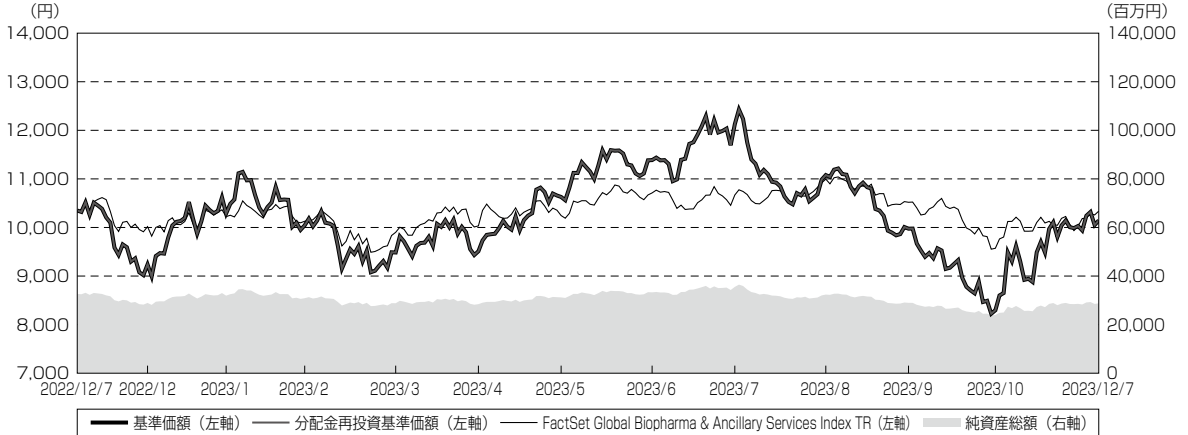
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2022年12月8日～2023年12月7日）



期 首：10,349円
 期 末：10,145円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰 落 率：△2.0%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは、期首（2022年12月7日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・中国のゼロコロナ政策撤廃や米国の利上げペースの軟化期待などから主要株式市場が急伸したこと。
- ・米国の債務上限問題の懸念後退や中国の景気対策期待の高まりなどを背景に、市場が堅調に上昇したこと。
- ・米国の利上げ終了観測などを受けて世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談などを受けて、市場が2023年の年初来の高値圏まで反発したこと。

- ・米国の利上げ長期化観測や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンの押し上げ効果となったこと。

<値下がり要因>

- ・インフレ軟化期待の後退や欧米の金融不安の拡大などから世界的な株安となったこと。
- ・米国の金融引き締め長期化観測や、中国の景気懸念と不動産信用問題の再燃、中東情勢の混乱などが悪材料となって世界的な株安となったこと。

1 万口当たりの費用明細

（2022年12月8日～2023年12月7日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 184	% 1.804	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	（ 95）	（0.935）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 84）	（0.825）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供などの対価
（受託会社）	（ 4）	（0.044）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	8	0.080	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	（ 8）	（0.080）	
(c) 有価証券取引税	1	0.005	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	（ 1）	（0.005）	
(d) その他費用	5	0.044	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	（ 3）	（0.026）	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資 金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	（ 0）	（0.004）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用等）	（ 1）	（0.014）	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
（その他）	（ 0）	（0.000）	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	198	1.933	
期中の平均基準価額は、10,173円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

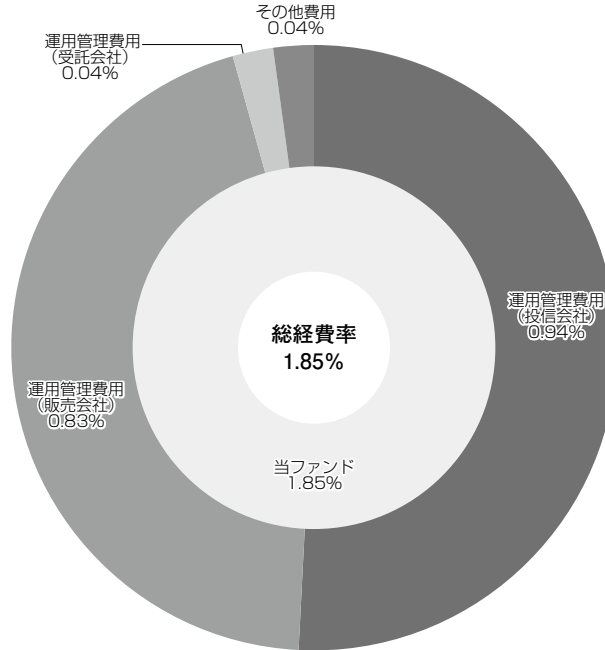
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.85%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年12月7日～2023年12月7日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2019年1月16日です。

	2019年1月16日 設定日	2019年12月9日 決算日	2020年12月7日 決算日	2021年12月7日 決算日	2022年12月7日 決算日	2023年12月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,045	20,354	15,813	10,349	10,145
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	10.5	84.3	△22.3	△34.6	△2.0
FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR騰落率 (%)	—	15.0	22.5	15.1	2.9	△0.1
純資産総額 (百万円)	5,721	121,171	95,986	57,593	32,629	28,761

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2019年12月9日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。
参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

（2022年12月8日～2023年12月7日）

（株式市況）

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大きく上昇し、また円安による押し上げ効果で円ベース・リターンでは大幅な上昇となりました。

期間の初めから2023年2月上旬にかけては、主要中央銀行の利上げ長期化観測や中国における新型コロナウイルスの感染急拡大などから主要株式市場は一時下落したものの、中国のゼロコロナ政策転換を受けた経済再開期待や、2022年12月の米国消費者物価指数（CPI）がインフレ鈍化を示唆して米国の利上げペースの軟化期待が高まるなかでテクノロジー株などのグロース株への買い戻しが続き、市場は大幅に上昇しました。

しかしその後、予想外の堅調ぶりを示した2023年1月の米国雇用統計や欧米のインフレ率を受けてインフレ軟化期待が後退し、金利上昇や米中対立懸念なども悪材料となって市場は反落しました。米国の地方銀行や一部の欧州の銀行から端を発した金融システム危機の懸念も悪材料に、3月中旬まで世界的な株安となりました。その後、各国当局の迅速な対応を受けて金融不安が後退すると、長期金利が低下するなかで買い戻されたテクノロジー株などを中心に反発して市場は4月にかけて下落分を取り戻す上昇となりました。

7月末にかけては、米国の地方銀行の信用問題再燃や景気減速懸念などをこなしつつ、米国の債務上限問題の懸念後退や、6月のCPIがデシインフレを示したこと、中国の景気対策期待などから良好なセンチメント（心理）が続き、主要株式市場は堅調に上昇して年初来高値を追いました。

8月から10月にかけては、米国の金融引き締め長期化観測が高まるなかで米国長期金利が急伸び、中国の景気減速懸念や不動産信用問題の再燃、米国政府閉鎖懸念、中東情勢の混乱などの悪材料が重なり、世界的な株安基調が続きました。

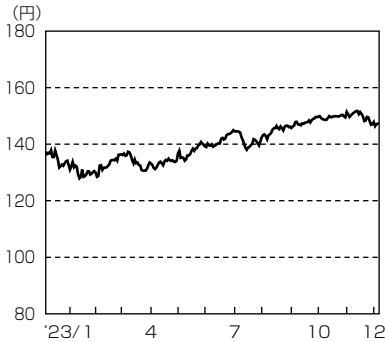
11月から期間末にかけては、米国連邦準備制度理事会（FRB）による2会合連続の利上げ見送りを受けて米国の金融引き締めの終了観測が台頭し、世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談を受けた地政学的リスクの後退などからセンチメントが好転し、主要株式市場はグロース株を中心に年初来の高値圏まで急反発して期間末を迎えました。

為替市場では、日銀の金融緩和策の修正観測や米国の利上げペースの軟化期待などから対アメリカドルや主要通貨で円高が進む局面がありつつも、期間を通じて米国の利上げ長期化観測などを織り込んで円安基調が続き、円ベース・リターンは大きく押し上げられる格好となりました。

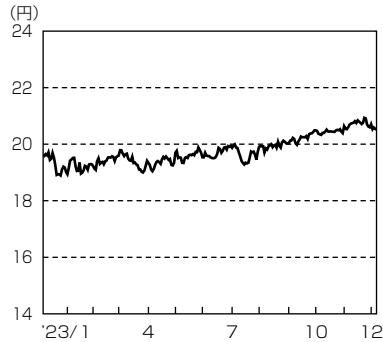
（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

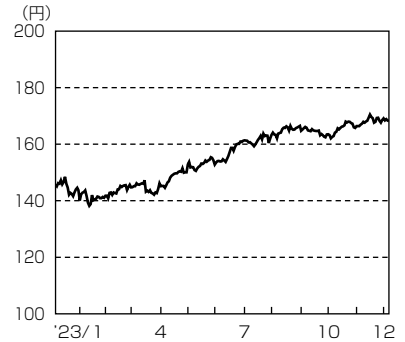
円／アメリカドルの推移



円／香港・オフショア人民元の推移



円／スイスフランの推移



当ファンドのポートフォリオ

（2022年12月8日～2023年12月7日）

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

アクティブ運用を行なう当ファンドでは、マクロ経済の状況を引き続き見通してポジションを適宜縮小・集約していく方針です。通常、当ファンドでは市場が大幅に下落する局面でポートフォリオを集約し、市場が拡大する局面で銘柄数を増加させます。

期間中の主な投資行動は、以下の通りです。

フェイト・セラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、製品および事業の優位性、ならびに実行力のスコアを引き下げ、保有株式を全売却しました。マルチプレックス編集にCRISPR/Cas-9を使用することは、二本鎖DNA切断を引き起こすことを通じて転座を引き起こす可能性があり、当ファンドでは、より優れた手法が存在すると考えています。

アイオバンス・バイオセラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、細胞治療市場における開発能力や競争力に対する確信度が大きく低下したため全売却し、より良好なリターン、および社会的・環境的により有意義なインパクトを世界的にもたらすことが期待できる銘柄を複数購入しました。

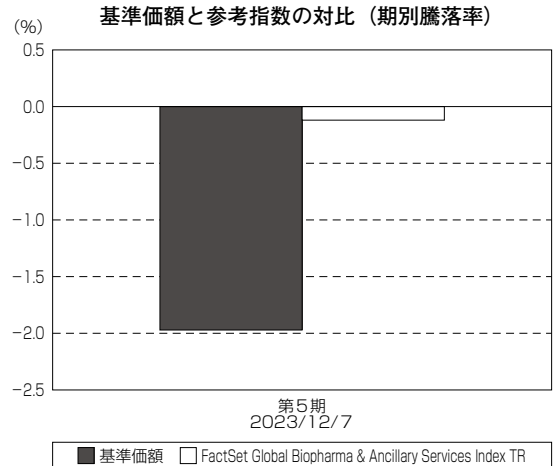
コデクシス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）も全売却し、確信度がより高くなったQuantum-Si（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）などの追加購入代金に充てました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

（2022年12月8日～2023年12月7日）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。

分配金

（2022年12月8日～2023年12月7日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第5期
	2022年12月8日 ～2023年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,271

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が今後3～5年間に於いてゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量増加をもたらし、生産性、収益性を押し上げることになると予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシング（DNA（＝核酸）を構成する塩基の配列を決定すること）やゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治する個別化医療の時代の到来が予想されます。細胞療法の革新と他家由来細胞の活用が組み合わさることで、細胞療法の市場規模がさらに1,500億アメリカドル拡大する可能性があり、癌の遺伝子療法の総市場規模は約20倍に増加し、2,600億アメリカドルを超えると期待されます。そうした治療法のブレークスルー（大躍進）を受けて、シーケンシングに対する需要の拡大が加速すると思われ、シーケンシングは通常の医療の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大してきています。例えば、2025年までCRISPR技術（ゲノム編集技術の一つ）は農業畜産水産物市場を推定でおよそ1,700億アメリカドル拡大させる可能性があり、世界の人口増加が予想されるなかで食料供給を支えるとみられています。人為的要因による土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産物の養殖が可能になるとみられます。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2022年12月8日から2023年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、信託期間を無期限とするよう、2023年9月8日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第4条、第57条）

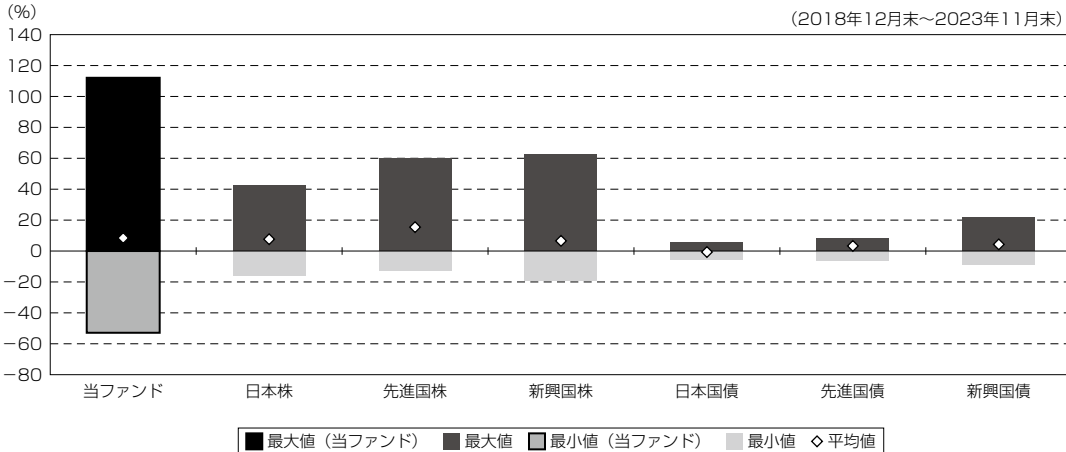
当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引および外国為替予約取引の利用目的を明確化するべく、2023年9月8日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表、第21条、第22条、第23条、第28条）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2019年1月16日から原則無期限です。	
運用方針	主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）	「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、ゲノム技術に関連するビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。株式の銘柄選定にあたっては、各企業の成長性、収益性、財務健全性、流動性などを勘案して行ないます。外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	112.1	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
最小値	△ 52.9	△16.0	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△ 8.8
平均値	8.4	7.6	15.4	6.6	△0.6	3.3	4.3

- (注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
 (注) 2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2020年1月以降の年間騰落率を用いております。
 (注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
 (注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

- 日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)
- 先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)
- 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)
- 日本国債：NOMURA-BPI国債
- 先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの参考指数について

●FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR

FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年12月7日現在）

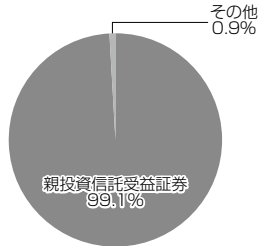
○組入上位ファンド

銘柄名	第5期末
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	99.1%
組入銘柄数	1銘柄

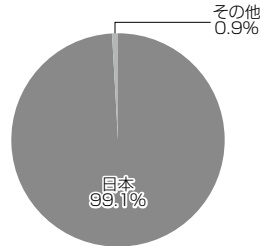
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

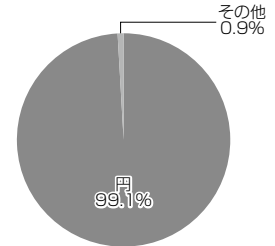
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第5期末
	2023年12月7日
純資産総額	28,761,595,141円
受益権総口数	28,351,603,956口
1万口当たり基準価額	10,145円

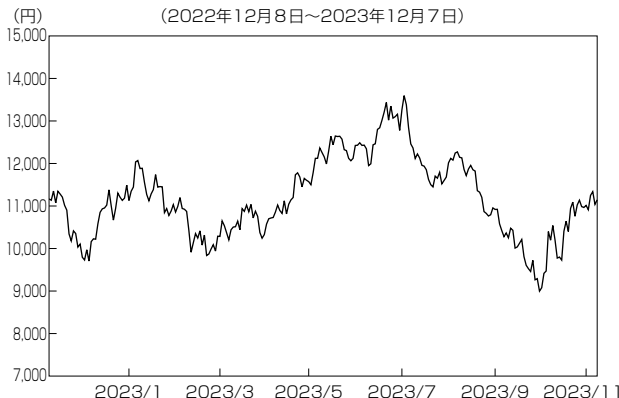
（注）期中における追加設定元本額は3,034,678,761円、同解約元本額は6,211,276,540円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド

【基準価額の推移】

(2022年12月8日～2023年12月7日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年12月8日～2023年12月7日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	9 (9)	0.081 (0.081)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	1 (1)	0.005 (0.005)
(c) その他費用 (保 管 費 用) (そ の 他)	3 (3) (0)	0.027 (0.027) (0.000)
合 計	13	0.113

期中の平均基準価額は、11,082円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2023年12月7日現在)

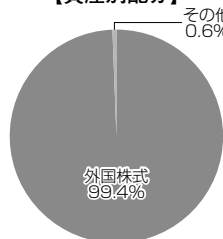
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	CRISPR THERAPEUTICS AG	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	スイス	8.2
2	EXACT SCIENCES CORP	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	6.7
3	IONIS PHARMACEUTICALS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	4.6
4	INTELLIA THERAPEUTICS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	4.1
5	RECURSION PHARMACEUTICALS-A	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	4.0
6	VERACYTE INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	3.9
7	BEAM THERAPEUTICS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	3.8
8	ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	3.5
9	TWIST BIOSCIENCE CORP	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	3.3
10	ACCOLADE INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカドル	アメリカ	3.0
	組入銘柄数		46銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

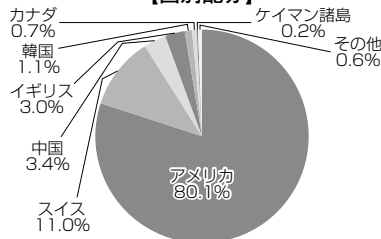
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

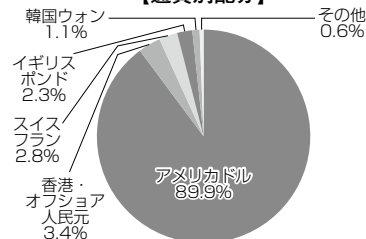
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）

【貸借対照表】

(単位：円)

	第4期 2022年12月7日現在	第5期 2023年12月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	689,658,293	554,705,307
親投資信託受益証券	32,286,072,648	28,500,234,682
未収入金	110,333,562	99,087,658
流動資産合計	33,086,064,503	29,154,027,647
資産合計	33,086,064,503	29,154,027,647
負債の部		
流動負債		
未払解約金	112,503,527	112,078,385
未払受託者報酬	8,270,629	6,721,426
未払委託者報酬	330,827,655	268,859,546
未払利息	1,607	86
その他未払費用	5,014,560	4,773,063
流動負債合計	456,617,978	392,432,506
負債合計	456,617,978	392,432,506
純資産の部		
元本等		
元本	31,528,201,735	28,351,603,956
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	1,101,244,790	409,991,185
（分配準備積立金）	14,607,135,463	11,851,363,826
元本等合計	32,629,446,525	28,761,595,141
純資産合計	32,629,446,525	28,761,595,141
負債純資産合計	33,086,064,503	29,154,027,647

【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第4期		第5期	
	自	2021年12月8日 至 2022年12月7日	自	2022年12月8日 至 2023年12月7日
営業収益				
受取利息		299		1,001
有価証券売買等損益		△17,435,226,799		△132,463,876
営業収益合計		△17,435,226,500		△132,462,875
営業費用				
支払利息		150,909		162,525
受託者報酬		17,914,539		13,425,772
委託者報酬		716,586,388		537,035,788
その他費用		5,978,896		5,443,544
営業費用合計		740,630,732		556,067,629
営業利益又は営業損失（△）		△18,175,857,232		△688,530,504
経常利益又は経常損失（△）		△18,175,857,232		△688,530,504
当期純利益又は当期純損失（△）		△18,175,857,232		△688,530,504
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）		△2,297,533,084		14,992,273
期首剰余金又は期首欠損金（△）		21,172,301,016		1,101,244,790
剰余金増加額又は欠損金減少額		1,045,010,734		239,244,756
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		—		—
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		1,045,010,734		239,244,756
剰余金減少額又は欠損金増加額		5,237,742,812		226,975,584
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		5,237,742,812		226,975,584
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		—		—
分配金		—		—
期末剰余金又は期末欠損金（△）		1,101,244,790		409,991,185